

第64回全国英語研究団体連合会総会・全国英語教育研究大会 報告

日時 2014年11月7日(金)8日(土)

場所 秋田県民会館、国際教養大学

参加者 山田 恵

1 鳥飼玖美子先生(立教大学)記念講演

「グローバル時代の英語コミュニケーション：国際共通語、異文化理解、アイデンティティ」

【講演要旨】

世界学術学会文学言語委員会2012に参加した際、世界の多様性につながるため、自らを振り返るために、母語の存在を意識させることが大切であるとの示唆があった。また、英語を学ぶ意義は、文化的負荷を軽減させるものであり、通じる英語が大切であるという意見も多くあった。今の日本はどうか？とくに、経済界からの強い要請により、現在の学校教育の中で、会話中心になり過ぎてはいないか。企業においても、インターネット時代であり、電話での簡単な会話のあと、大事なことは「メール」でのやり取りが主流である。ヨーロッパでは、戦争への後悔が日本より強く、どうすれば戦争が回避できるのかを、国がもっと考えているように感じる。その中で、とくに言われているのが、「世界観を持つ」つまり複数の文化を理解することで、お互いの気持ちを理解しあうことが求められている。**複数の言語や文化を学ぶことで、自分の存在をより自覚できると思われる。言語は一生かけて学ぶものであり、教師は生徒が学校を卒業しても自分で勉強していく力をつける役割もあることを忘れてはいけない。**これからは、自分の持てるものを生かして、グローバルに世の中に貢献できるかが問われ、そのためには、**自分のアイデンティティ、共感すること、心を開くこと、言葉による関係の構築、そして専門性を持つことが重要である。つまりは、多言語能力が求められ、寛容な心、妥協でなく折り合うことが必要となる。**

【補足】

鳥飼先生は、現在、国(文部科学省等)で検討されている小学校での教科としての英語授業、英語外部テストによる大学入試の方向性などを危惧されていた。

2 授業実演校

(1) 秋田市立牛島小学校

- ・小学校では、コミュニケーション能力を養うという観点から、英語を楽しむ要素が多かった。
- ・全てを英語で実施しているのではなく、日本語で指示を出している場面も見られた。
- ・日頃から「smile、eye contact、gesture clear、voice」を意識させている様子が見られた。
- ・秋田県内の街を国際教養大学の留学生に紹介するという設定であった。**絵を見せて、単語でも通じるような工夫が見られた。**

(2) 秋田市立秋田東中学校

- ・ALTに薦めたい日本の観光地を発表しようという試みで、クイズ形式にしてグループ発表した後、質問する活動であった。
- ・生徒たちは、英語の指示にも慣れてきている様子であった。
- ・日本の観光地に関する知識がないとヒントが作れないため、**活動にも様々な知識・一般常識が必要となると実感した。**

(3) 秋田県立秋田南高等学校・研究会参加(国際教養大学にて)

○学校情報：国公立大学進学70%、私立大学進学30%、部活動加入率80%

○授業のポイント

- ・自分の意見を**付箋**に「単語」で書き、役割分担をしたグループ活動で、発表、司会、質問担当がそれぞれ活動する。
- ・プレゼンでは、付箋を見ることができ、自分の言葉でまとめる練習になり、**本校でも活用できるアイデアがあった。**⇒付箋活用は、どの教科でも取り入れることができる活動だと思われる。

3 国際教養大学

残念ながら、授業を拝聴することはできなかった。図書館は素晴らしく、何時間でもいたい雰囲気だった。敷地内に寮も完備され、充実した生活が送れる環境であった。